

「博士候補研究員」についての Q&A

平成 22 年 5 月 24 日

「博士候補研究員」は、国際言語文化研究科博士後期課程を満期退学した方の課程博士の学位取得を支援するために設けられています。「博士候補研究員」についての基本的な考え方は、申請時にお渡しした「名古屋大学大学院国際言語文化研究科博士候補研究員取扱要項」（以下「取扱要項」と略記）にすべて書かれています。しかし、これまでに多くの方から様々な質問が寄せられていますので、今後の参考のために、以下に Q&A を作成しました。

Q1：「博士候補研究員」になっても、「留学生ビザ」を取得することができますか。

A1：「博士候補研究員」は本研究科を満期退学して学籍を失っていますので、「留学生」ではありません。したがって「留学生ビザ」の取得はできません。これまで「留学生」であった方は、所定の手続きを経て「留学生ビザ」から「文化活動ビザ」に切り換えることが可能ですが、「文化活動ビザ」の場合には資格外労働許可証が認められませんので、大学の非常勤講師など定期的な雇用契約を示すことができる場合を除いては、アルバイトをすることができません。

Q2：「文化活動ビザ」に切り換えるために入国管理局提出用の書類を発行してもらうにはどのようにすればいいですか。

A2：文系総務課国際言語文化研究科担当主任のところまで申請してください。申請時及び受取時ともに、原則、直接窓口に来ていただくこととなっています。また、申請から受取まで概ね1週間を要しますので、あらかじめ念頭においてください。

Q3：「博士候補研究員」は各種奨学金、留学生用宿舎（留学生レジデンス・寮など）の入居者募集などに応募することができますか。

A3：「博士候補研究員」は名古屋大学を退学していますので大学院生としての学籍がありません。したがって、名古屋大学国際言語文化研究科の学生であることを応募条件とする奨学金や宿舎には応募できませんし、研究科から推薦することもできません。

また、後述（A10）する「博士候補研究員」の設立趣旨からも、研究員（者）としてのレジデンス入居申請に対して、研究科として推薦することはできません。

Q4：「博士候補研究員」は奨学金の応募その他の情報を得るために、院生のメーリングリストに加入することができますか。

A4：院生のメーリングリストは、院生への連絡事項、情報、あるいは院生相互の連絡用に使われますので、学籍のない「博士候補研究員」はリストに加入することができません。

Q5：「博士候補研究員」は名古屋大学の附属図書館および各部局の図書室を利用することができますか。

A5：「博士候補研究員」は「博士候補研究員決定通知書」（文系総務課国際言語文化研究科担当主任のところ受取ることができます）を附属図書館窓口で呈示することにより、入館証を発行してもらうことができます。また、この入館証によって、情報・言語合同図書室など各部局の図書室も院生と同様の資格で利用することができます。（「取扱要項」第7項参照）

Q6：「博士候補研究員」は国際言語文化研究科の占有スペース（大・小院生室、コンピュータ室、研究科の共用スペース等）を利用することができますか。

A6：国際言語文化研究科の占有スペースは研究科に所属する院生と教員の利用に供されていますので、「博士候補研究員」は利用することができません。（「取扱要項」第7項参照）

Q7：「博士候補研究員」は休日や週日午後8時以降に、研究科占有スペースのある建物（文系総合館、全学教育棟北棟、国際言語文化棟）に入るためのカードを入手できますか。

A7：できません。休日や週日午後8時以降に指導教員との面談を行う場合には、あらかじめ指導教員に連絡して面談時間を設定してください。

Q8：「博士候補研究員」は指導教員の授業あるいは他の授業を受講することができますか。

A8：名古屋大学で開講されている授業は、学籍をもつ学生に向けて開講されており、学籍をもたない場合には、「科目等履修生」などの手続きおよび受講料が必要となります。したがって、授業の受講は原則としてできません。

Q9：「取扱要項」第8項には「博士候補研究員は、研究科において研究を開始する前に、任意の傷害保険に加入しなければならない。」と書かれていますが、名古屋大学の学生保険に加入することができますか。

A9：「博士候補研究員」は名古屋大学の学生ではありませんので、本学学生用の保険に入ることはできません。したがって、未加入の方は、各人で保険会社を選び、なるべく早く加入してください。

Q10：「博士候補研究員」として海外で研究発表をする場合、この称号の英語名はどのようにすればいいですか。

A10：「博士候補研究員」は正式な身分・称号ではなく、満期退学して身分・称号をもたない方を支援して、なるべく早く博士論文を仕上げ、学位を取得してもらうために考えられたものですが、その実態に合わせて、**Pre-doctoral Researcher** としてはいかがでしょうか。